

ヨコレイ NOTE VOL.29

第75期報告書

2021年10月1日～2022年9月30日

- P1 トップインタビュー・財務ハイライト
- P3 地球温暖化防止に貢献するヨコレイの環境への取り組み
- P5 営業の概況・事業別の概況
- P6 連結財務諸表(要約)
- P7 News & Topics
- P9 株主ひろば
- P10 会社情報



ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

2020年、当社は、2030年に向けて事業活動およびサステナビリティの「ありたい姿」を示す二つの長期ビジョンを定め、そのファーストステップとなる3か年の中期経営計画を策定・実行し、最終年度に突入しました。

ここに第75期(2021年10月1日~2022年9月30日)の営業状況をご報告し、あわせて長期ビジョンおよび中期経営計画の進捗状況をご説明させていただきます。

2022年12月

代表取締役社長 **松原 弘幸**

「創る力」を支える、 経営基盤の改革に邁進します。

Q 第75期の営業状況はいかがでしたか？

厳しい事業環境ながらも、前期から取り組んできた利益改善が功を奏し、営業利益・経常利益ベースで、大幅な増収増益となりました。

第75期(当期)は、新型コロナウイルス感染再拡大、原材料コストやエネルギー価格の上昇、記録的な円安等、厳しい事業環境となりましたが、第74期(前期)から取り組んできた食品販売事業の利益改善や冷蔵倉庫事業の「複合型マルチ物流サービス」が功を奏し、営業利益・経常利益ベースで大幅な増収増益となりました。

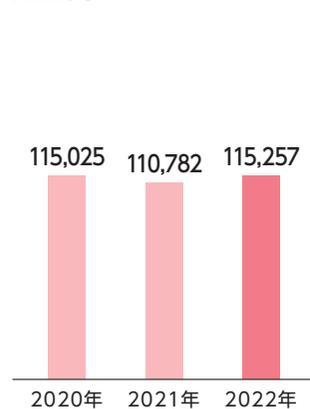
冷蔵倉庫事業は、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響で、在庫ポジションをコントロールできない時期もありま

したが、荷動きが回復傾向に転じたことや、取引先の利便性の向上と環境配慮型経営を支援する施策「複合型マルチ物流サービス」をはじめとした営業努力により、増収増益となりました。THAI YOKOREI CO.,LTD.も、コロナ禍の影響を受けた前期から回復し、在庫量、出荷量ともに前期を上回りました。

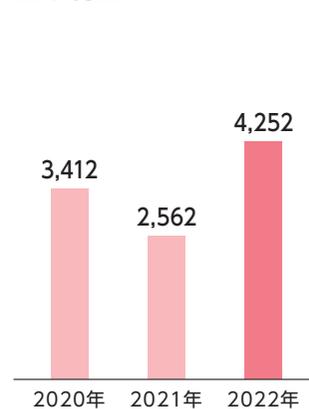
食品販売事業は、ウクライナ情勢によりカニの相場が下落するなど利益を下押しする要因も一部ありましたが、メーカーや量販店、外食向けの販路拡大による収益の安定化と収益性向上の努力が実を結び、営業利益が大幅に改善して、黒字転換しました。以上の結果、当期の連結業績は、売上高1,152億57百万円(前期比4.0%増)、営業利益42億52百万円(同65.9%増)、経常利益49億99百万円(同81.0%増)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、

財務ハイライト

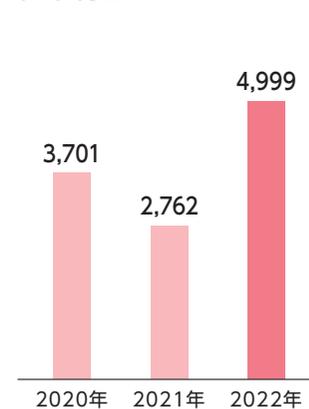
売上高 (百万円)



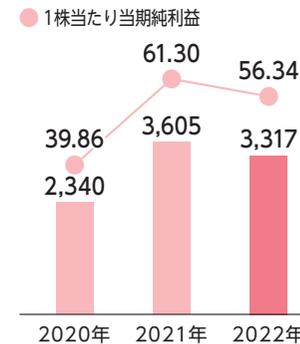
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する
当期純利益(百万円) /
1株当たり当期純利益(円)



前期においてノルウェー養殖事業再編に伴う特別利益26億46百万円の計上があったため、33億17百万円(同8.0%減)となりました。



長期ビジョンおよび3か年中期経営計画の進捗状況についてご説明願います。

持続的な成長の基盤となる意識、組織、制度の改革を推進していきます。

当社グループでは、「ヨコレイ事業ビジョン2030」および「ヨコレイサステナビリティビジョン2030」を掲げています。「ヨコレイ事業ビジョン2030」では、売上高1,700億円、営業利益100億円、EBITDA170億円の定量目標、「ヨコレイサステナビリティビジョン2030」では、5項目のマテリアリティと定性・定量目標を設定しました。また、中期経営計画「創る力」では、最終年度となる2023年9月期(今期)に連結売上高1,240億円、連結営業利益50億円、EBITDA110億円、自己資本比率40%台半ばの維持を定量目標とし、持続的な成長に向けた重点施策に取り組んできました。厳しい事業環境下でありながらも当期の連結業績において増収増益を確保できたのは、これらの重点施策の効果が顕在化した成果だと考えています。

冷蔵倉庫事業では、環境配慮型物流センターの運営に向けた取り組みとして、既設センターの自然冷媒化工事や、北海道地区の全冷蔵倉庫で実質再生可能エネルギー100%の電力への切り替えを実施しました。以前より進めてきたカーゴナビゲーションシステム等の導入を加速するとともに、RPAの活用を開始し、事務作業の生産性向上を実現するなど、DXによる省人化・省力化も着実に進んでいます。また、冷蔵イノベーションサミットの実施により、全国各エリアの課題を共有、解決のための具体的な取り組みを掲げ、それ

ぞれ実行に向けた活動を進めています。

食品販売事業では、ノルウェーサーモン等の事業品を武器に、量販店を中心とした取引先の新規開拓に力を入れ、販売数量を大きく伸ばしました。自社オリジナル製品の販売によるヨコレイブランドの確立にも取り組んでおり、ノルウェーのパートナー企業Hofseth社が生産するスモークサーモンおよびトラウトのトリム製品のパッケージに、ヨコレイのロゴを入れて販売を始めました。宮崎県の自社グループ養殖場で生産した鰻蒲焼き製品の当社オリジナルブランド「三つ葉亭」も量販店等への拡販を進めており、ヨコレイブランドの浸透を目指しています。

管理部門では、2022年1月に、研修・教育の充実により多様な人材を育成することを目的として、人事部の下部組織に人材開発センターを設置し、計27回、延べ600名以上を対象に、研修を実施しました。

またサステナビリティへの意識を高めるため、コーポレートサイトや社内報等で、当社のESGに関する取り組みについて開示を進めてきました。その結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に初めて選定されました。また、当社の「統合レポート2021」が、GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」に初選出されるなど、外部からの評価を受ける機会も増えてきました。

創立75周年の節目にあたる今期は、当社の認知度向上のための戦略も強化していくつもりです。そのための取り組みの一つとして、東海道新幹線の4駅に当社初の企業PRポスターを掲出しました。社員のモチベーション向上にもつながることから、今後も継続していきたいと考えています。

長期ビジョン達成のため、今後はこれらの取り組みに加え、人事制度改革にも着手するなど、意識、組織、制度の3つの改革をエンジンとして、経営基盤の強化をさらに

進めていきます。そして、全てのステークホルダーの皆様から評価されるヨコレイブランドの育成と企業価値向上を目指していきます。



株主の皆様へのメッセージをお願いします。

「食」の安定供給の担い手として、社会貢献および企業価値向上に努めます。

当期の期末配当については、安定配当の継続を原則とする株主還元方針に基づき、予定通り1株当たり11円50銭とし、年間配当額は、同額の間配当とあわせて年23円としました。今期は、創立75周年を迎えることから記念配当を1株当たり1円追加し、年間配当額は1株当たり24円とする計画です。

これからも当社グループは、安全・安心な食を安定供給する「食のインフラ」として社会貢献と企業価値向上を追求していきます。株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



地球温暖化防止に貢献する ヨコレイの環境への取り組み

2020年11月にヨコレイサステナビリティビジョン2030を策定し、
2030年に温室効果ガス排出量40%削減（収容能力あたり、2015年比）をはじめとした
各種定量目標・定性目標の達成に向け、取り組みを進めております。

ヨコレイサステナビリティビジョン2030

明るい食の未来へ

～ヨコレイは食の安定供給により、持続可能な社会に貢献します～

マテリアリティ

| | |
|--------------|----------------|
| 地球環境との共生 | より高い品質・サービスの提供 |
| | 地域社会とともに発展 |
| 働きがいのある職場づくり | 経営基盤の強化・健全性の確保 |

定量目標

- 収容能力あたりの温室効果ガス排出量
2015年比40%削減
- 自然冷媒導入率80%以上
- 働きがいを実感している従業員の割合
80%以上
- 女性管理職人数2020年度比2倍以上

TCFD提言への賛同を表明

2021年12月、当社は「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）^{※1}」の
提言へ賛同を表明するとともに、「TCFDコンソーシアム^{※2}」に加盟しました。

当社では、2020年11月に策定した「ヨコレイサステナビリティビジョン
2030」において、重要課題（マテリアリティ）の一つとして「地球環境との共
生」を定めており、定量・定性目標達成に向けた取り組みを行っています。

今後も引き続き、気候変動をはじめとする環境問題への取り組みを積極的に
推進するとともに、TCFDの提言に基づく情報開示に注力してまいります。



※1 G20の要請を受け、気候関連の情報開示および金融機関の対応を検討するため、金融安定理
事会(F S B)により2015年に設立されたタスクフォース。T C F Dは2017年6月に最終報告
書を公表し、企業等に対して、気候変動関連リスクおよび機会に関する4項目(ガバナンス、戦
略、リスク管理、指標と目標)を開示することを推奨しています。

● TCFDウェブサイト：<https://www.fsb-tcf.org/>

※2 企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断につなげる取り組
みについて議論する場として設立。TCFDに賛同した企業・機関が参加。

● TCFDコンソーシアムウェブサイト：<https://tcf-consortium.jp/>

| | 2022年9月期 | 2023年中期経営計画目標 | 2030年目標 |
|-------------------------------|----------|---------------|---------|
| 温室効果ガス排出量 (収容能力あたり、2015年比) | 31.0%削減 | 30%削減 | 40%削減 |
| 自然冷媒導入率 | 68.1% | 70%以上 | 80%以上 |
| 太陽光発電能力 | 6.5メガワット | 7メガワット | 10メガワット |

千葉リサーチパーク物流センター CASBEE “A” 取得

千葉県千葉市に建設中の「千葉リサーチパーク物流センター（仮称）」(2023年2月完成予定)が、建築物の環境への取り組みレベルを評価・格付けするCASBEEの総合評価ランクでA(たいへん良い)を取得しました。

消費エネルギーを最小限に抑えるために、断熱性の高い外壁材や外部からの熱負荷を軽減する窓ガラス、太陽光発電システムやLED電球等を採用しており、環境性能に優れた建築物として評価されました。



北海道地区の当社冷蔵倉庫を全て実質 再生可能エネルギー100%の電力に切り替え

脱炭素化に向けた取り組みの一環として、2022年4月1日から、北海道で運営する全冷蔵倉庫6拠点、収容能力約14万トンで使用する電力を、RE100クライテリアに準拠した実質再生可能エネルギー100%の電力に切り替えました。北海道は、当社冷蔵倉庫の14%を占めるエリアで、冷蔵倉庫収容能力は道内トップシェアを誇ります。今回の電力の切り替えにより、年間約8,200 tのCO₂排出量を削減できる見込です。



「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定

当社は、グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築されたFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定されました。

各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスで、セクター・ニュートラルとなるよう設計されたものです。同インデックスは、世界最大規模の公的年金運用機関である年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)のESG指数に採用されています。



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

第75期 営業の概況・事業別の概況

(2021年10月1日～2022年9月30日)

営業の概況

当期の概況

国内経済は、新型コロナウイルス感染症の急激な感染再拡大が見られたものの、社会経済活動を維持する対策により、景気に持ち直しの動きが見受けられた。

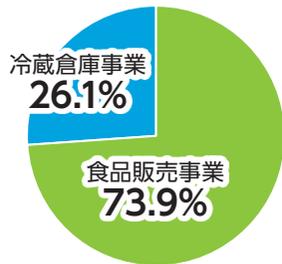
ウクライナ情勢等による原材料および燃料価格の上昇、日米の金利差拡大に伴う急激な為替変動等の影響により、景気の先行きが不透明な状況で推移。

食品関連業界においては、エネルギー価格や物流コストの高騰、消費者の節約志向の高まり等、厳しい経営環境が継続。

事業別売上高構成比

当期 (2022年9月期)
売上高合計

115,257百万円



今後の見通しと第76期 (2023年9月期) 業績予想

ウクライナ問題の長期化やエネルギー価格の高騰等、厳しい事業環境が続くものと予想されますが、当社では、中期経営計画(第I期)「創る力」の目標達成に向け、各重点施策への取り組みを強化しています。本中期経営計画の最終年度となる2023年9月期の業績予想は下記の通りです。

| | | |
|-----------------|-------|------|
| 売上高 | 1,240 | 億円 |
| 営業利益 | 50 | 億円 |
| 経常利益 | 52 | 億円 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 34 | 億円 |
| 1株当たり当期純利益 | 57 | 円74銭 |

事業別の概況

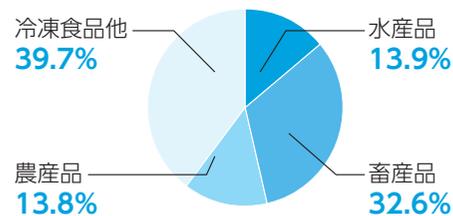
冷蔵倉庫事業

新型コロナウイルスの影響は続くも、入庫量、出庫量、在庫数量ともに前期を上回る。中期経営計画の重点施策「複合型マルチ物流サービス」で、引き続き冷凍食品の取扱量が増加。海上コンテナ不足に起因する貨物の入庫遅れが解消され、取扱量が回復し利益に大きく貢献。

タイは入庫量、出庫量ともに前期を上回り、主要品目である畜産品等が増加し、増収増益。

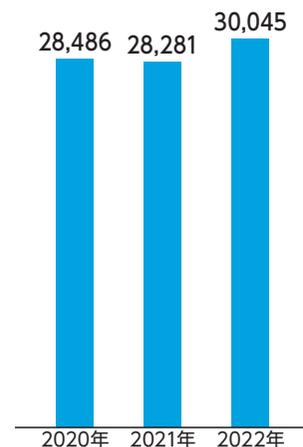
冷蔵倉庫事業の業績は、売上高は30,045百万円(前期比6.2%増)、営業利益は6,447百万円(前期比7.9%増)の増収増益。

当期入庫量品目別割合



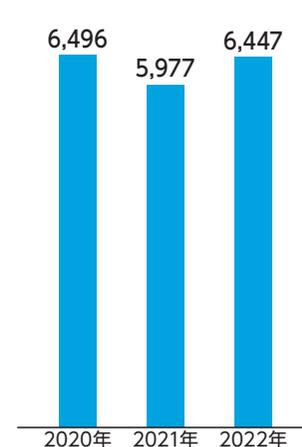
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



食品販売事業

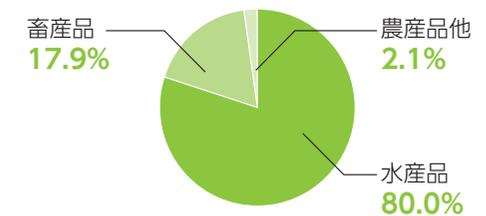
中期経営計画の施策である産地事業所や海外パートナーとの連携が進み、国内量販店、外食等への販売が拡大し、水産品全体では増収増益。

畜産品は、量から質への変革を進め、チキンが販売を伸ばした一方、ポークは外食向けの取り扱いが減少し、全体では減収増益。

農産品は、主力のイモ類は前年並みの推移だが、キャベツの取り扱いが増加し利益に貢献、増収増益。

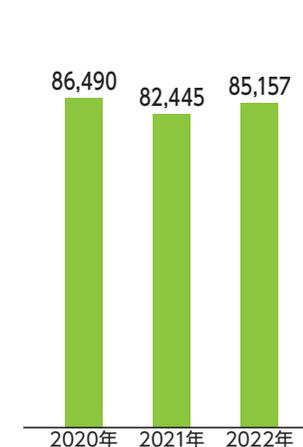
食品販売事業の業績は、売上高85,157百万円(前期比3.3%増)、営業利益1,324百万円(前期は302百万円の営業損失)。

当期品目別売上高構成比



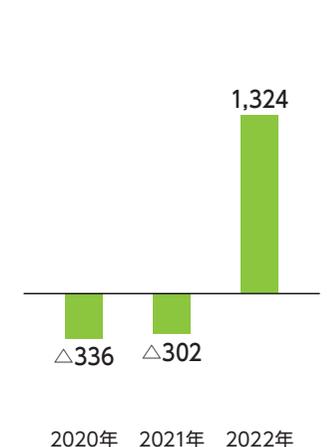
売上高

(百万円)



営業利益

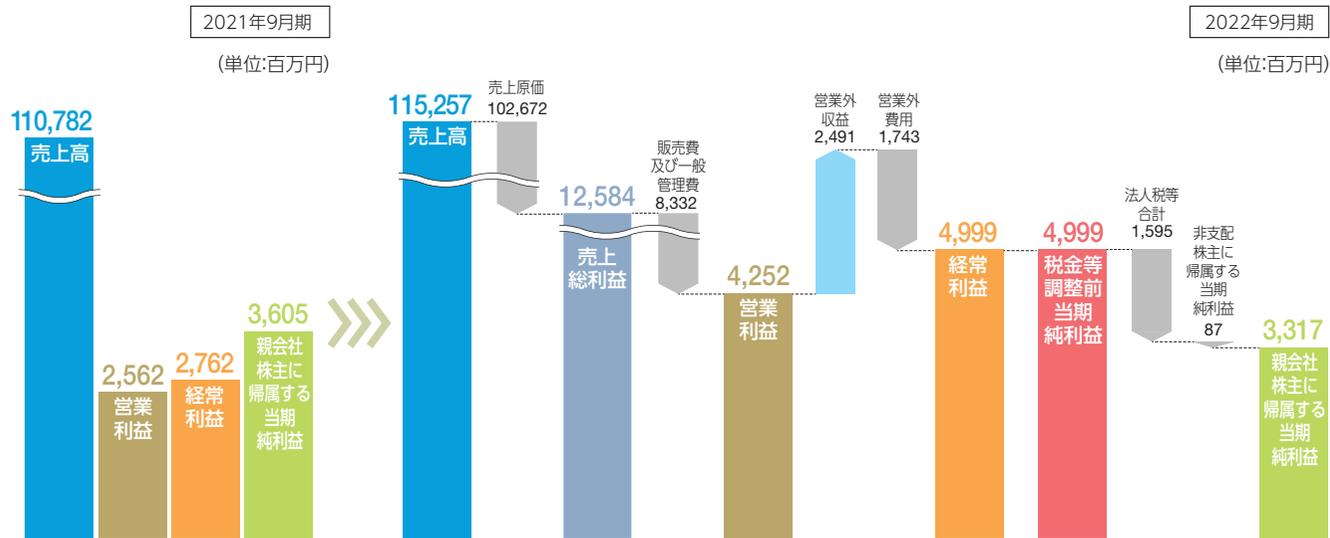
(百万円)



連結財務諸表(要約)

連結財務状況

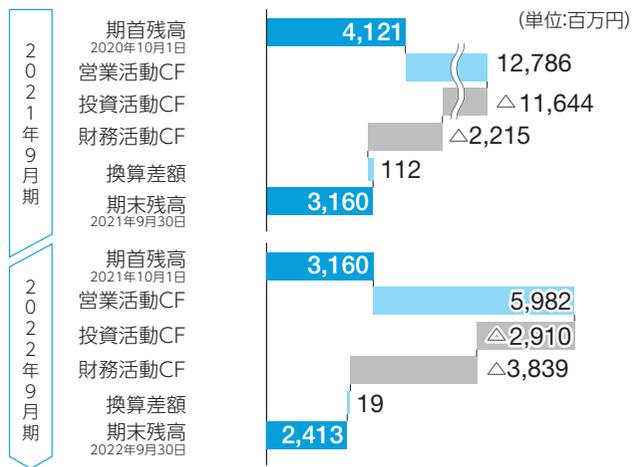
◆ 損益の状況



◆ 資産・負債・純資産の状況



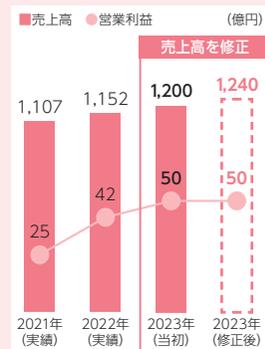
◆ キャッシュ・フローの状況



もっとくわしく!

中期経営計画の見直しと進捗について

原材料やエネルギー価格の高騰等の影響により、食品販売事業における販売価格が上昇しているため、売上高目標を40億円増の1,240億円に修正しました。



中期経営計画

(2021年9月期~2023年9月期)

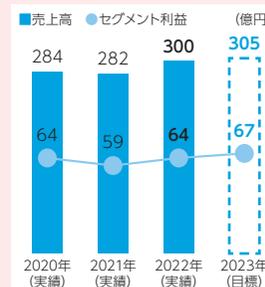
2023年9月期数値目標

(2022/11修正後)

売上高 **1,240億円**
 営業利益 **50億円**
 EBITDA **110億円**

自己資本比率

40%台半ばを維持

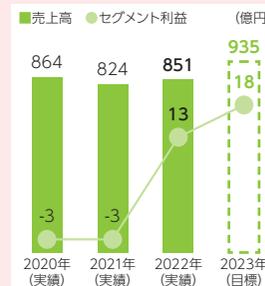


冷蔵倉庫事業の進捗状況

- 当社独自の複合型マルチ物流サービスの提供等の新たな取り組みにより売上高・利益ともに順調に拡大

数値目標

売上高 **305億円**
 営業利益 **67億円**



食品販売事業の進捗状況

- 販売拡大に向けた取り組み等により、概ね計画通りに売上を拡大
- 構造改革による収益性向上により、大幅な黒字転換が実現

数値目標

売上高 **935億円**
 営業利益 **18億円**

※セグメント利益は、配賦不能営業費用(管理部門にかかる費用)の控除前です。

■ 全社

■ 第1回SDGs大会を実施

ヨコレイサステナビリティビジョン2030の達成に向け、全社的にSDGsへの取り組みを推進するため、子会社を含めた全事業所参加によるSDGs大会を実施しました。各事業所での取り組みを共有することで、社員一人一人がSDGsの意義を理解し、更なる行動につなげていくためのきっかけとなりました。



■ 冷蔵倉庫事業

■ 千葉リサーチパーク物流センター着工

千葉県千葉市に「千葉リサーチパーク物流センター（仮称）」を新設します。

PICK UP

■ 恵庭スマート物流センター着工

北海道恵庭市に「恵庭スマート物流センター（仮称）」を新設します。

PICK UP

■ 食品販売事業

■ 平戸市より功労部門の優良団体として表彰

平戸アイスファクトリーの竣工に際し、平戸市未来創造文化振興基金に寄付を行い、市の発展に貢献したとして表彰を受けました。



■ 食品販売事業

■ 東海道新幹線4駅にポスターを掲出

東海道新幹線主要4駅の東京、名古屋、京都、新大阪に食品販売事業部門のPRポスターを掲出しました。

PICK UP

■ 冷蔵倉庫事業

■ 夢洲第二物流センター着工

大阪市此花区の夢洲地区に「夢洲第二物流センター（仮称）」を新設します。

PICK UP

■ 全社

■ 横浜DeNAベイスターズヨコレイドリームナイター開催

9月22日の横浜DeNAベイスターズvs読売ジャイアンツ戦で、当社冠試合「ヨコレイドリームナイター」を開催し、当社の株主優待品にも採用している「ノルウェー産サーモントラウト製品詰合せ」が抽選で30名様に当たるキャンペーンを実施しました。



2021年

10月

2022年

1月

3月

6月

7月

8月

9月

■ 全社

■ 商号の英文表示変更およびヨコレイカンパニー社名変更

横浜冷凍株式会社の商号の英文表示を「YOKOHAMA REITO CO.,LTD.」から社名呼称の「YOKOREI CO.,LTD.」に変更しました。



また、タイの非連結子会社「YOKOREI CO.,LTD.」の社名を「YOKOREI (THAILAND) CO.,LTD.」に変更しました。



■ 全社

■ ガーデンフェスタ北海道2022の庭園コンテストに出展

花と緑に関する国内最大級のイベント「ガーデンフェスタ北海道2022」が、恵庭スマート物流センター建設地である恵庭市を中心に開催され、当社は庭園コンテストで銀賞を受賞しました。



■ 食品販売事業

■ 駐日コロンビア大使が当社へ来訪

2020年からコロンビア産養殖バナメイエビの輸入販売を行っており、コロナ禍におけるコロンビア国内の情勢や養殖バナメイエビの生産状況等の対日輸出に関する現地情報について、説明を受けました。



■ 全社

■ 横浜FCに鰻蒲焼きを提供

オフィシャルパートナーを務めるJ2サッカークラブ横浜FCに、宮崎県産「三つ葉亭」鰻蒲焼きを提供しました。「三つ葉亭」は当社グループおよび提携養殖場で育てた鰻を使用した当社ブランド商品で、全国のスーパーや量販店でも販売しています。



PICK UP

夢洲第二物流センター新設



夢洲第二物流センター（仮称）は、2025年に大阪・関西万博が行われる夢洲地区内、既設の夢洲物流センターに隣接して建設中です。阪神地区における物流ネットワークの需要に応えるべく増強を図ります。

| | |
|-------|--|
| ●住所 | 大阪府大阪市此花区夢洲東1丁目2番12 |
| ●構造 | 鉄筋コンクリート造4階建て |
| ●規模 | 敷地面積：17,098㎡（5,172坪） 延床面積：12,116㎡（3,665坪） 既設棟合計34,176㎡（10,338坪） 建築面積：3,266㎡（988坪） 既設棟合計 9,313㎡（2,817坪） |
| ●収容能力 | 新設棟 15,221t（F級：13,404t C&F級：1,317t C級：500t） 既設棟合計 40,994t（F級：38,333t C&F級：1,317t C級：1,344t） |
| ●主な設備 | 省エネ型自然冷媒冷凍機、屋上太陽光発電システム（255kW）、リチウムイオン蓄電池（173kWh）、EV自動車充電ステーション、カーナビゲーションシステム&電動式移動ラック、高天井人感センサー照明設備（LED） |
| ●竣工 | 2024年1月予定 |

東海道新幹線4駅にポスターを掲出



当社の認知度向上を図るため、東海道新幹線の東京、名古屋、京都、新大阪の4駅に、食品販売事業部門のPRポスターを掲出しました。ポスターの素材には、当社の主力商材の一つであるノルウェー産サーモントラウトを使用したスモークサーモンと、トラウトの養殖場がある美しいフィヨルドの写真を使用しています。

恵庭スマート物流センター新設



建設地の北海道恵庭市は、道内各方面の主要都市間をつなぐ幹線道路が交わり、海路・空路の玄関口である苫小牧港や新千歳空港へのアクセスにも非常に優れていることから、周辺には食品メーカーの生産工場が多く、道内産食品や原料の集積地となっています。北海道内に展開している6つの冷蔵倉庫との連携により、道内物流ネットワークの更なる強化を図り、スマートコールドサービスの実現を目指します。

| | |
|-------|---|
| ●住所 | 北海道恵庭市戸磯2005-3 |
| ●構造 | 鉄筋コンクリート造3階建て |
| ●規模 | 敷地面積：17,525㎡（5,301坪） 延床面積：24,087㎡（7,286坪） 建築面積：8,276㎡（2,503坪） |
| ●収容能力 | 30,543t（F級：24,999t C&F級：4,383t C級：1,160t） |
| ●主な設備 | 省エネ型自然冷媒冷凍機、屋上太陽光発電システム（322.56kW）、リチウムイオン蓄電池（240KVA）、EV自動車充電ステーション、カーナビゲーションシステム&電動式移動ラック |
| ●竣工 | 2024年1月予定 |

千葉リサーチパーク物流センター新設



建設地のちばリサーチパークは、都内だけでなく圏央道を經由して北関東や東北地区へもアクセス可能で、茨城県の大洗港-北海道間のフェリー貨物の取り扱いも見込める物流の要衝の地です。同センターが関東地区の東の拠点として加わることで、首都圏から北関東までをカバーする広域物流ネットワークが完成します。

| | |
|-------|--|
| ●住所 | 千葉県千葉市若葉区上泉町958番10 |
| ●構造 | 鉄筋コンクリート造3階建て一部鉄骨造 |
| ●規模 | 敷地面積：19,748㎡（5,974坪） 延床面積：25,135㎡（7,603坪） 建築面積：8,901㎡（2,693坪） |
| ●収容能力 | 30,475t（F級：27,583t C&F級：1,870t C級：1,022t） |
| ●主な設備 | デバンパレタイズシステム、省エネ型自然冷媒冷凍機、屋上太陽光発電システム（816.48kW）、リチウムイオン蓄電池（480KVA）、EV自動車充電ステーション、カーナビゲーションシステム&電動式移動ラック |
| ●竣工 | 2023年2月予定 |



株主総会資料の電子提供制度について

会社法の改正により、株主総会資料が原則ウェブ化されます。

2022年9月1日施行の改正会社法により、2023年3月以降に開催される株主総会から、株主総会資料(招集ご通知)の電子提供制度(ウェブ化)が開始されます。株主の皆様におかれましては、当社から通知書面にてご案内するウェブサイトへアクセスすることで、株主総会資料をご確認いただくことができます。当社では2023年12月下旬開催予定の定時株主総会から適用となります。



※ インターネットのご利用が難しい株主様は、「書面交付請求」が可能です。

Q 「書面交付請求」とは?

A インターネットを利用することが困難な株主様を保護するためのお手続きです。お申し出いただいた株主様には発行会社より株主総会資料を書面でお送りします。なお、書面交付請求を行わなくても、URL等を記載した招集通知は必ず書面にて送られます。

Q 「書面交付請求」の受付期限は?

A 当社の株主総会の基準日である2023年9月30日までに申し出いただくことにより、2023年の株主総会資料を書面で受け取ることができます。

● お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部

[電子提供制度専用ダイヤル]

0120-696-505

平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日を除く)

または、口座を開設されている証券会社へ

会社情報 (2022年9月30日現在)

会社概要

会社名 横浜冷凍株式会社
 本社所在地 〒220-0012
 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
 みなとみらいブランドセントラルタワー7階
 TEL : 045-210-0011 (代表)
 FAX : 045-210-0018

設立 1948年5月13日
 資本金 14,303,426,625円
 従業員数 連結 1,639名 単独 1,326名

- 事業内容
1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
 2. 水産品の加工、販売並びに輸出入
 3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入
 4. 通関業
 5. 養殖業
 6. 製氷業
 7. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業
 8. 不動産賃貸業
 9. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
 10. その他前各号に付帯関連する一切の事業

役員および執行役員 (2022年12月22日現在)

| | | | |
|-----------|-------|---------|-------|
| 代表取締役会長 | 吉川 俊雄 | 監査役(社外) | 宗像 久男 |
| 代表取締役社長 | 松原 弘幸 | 執行役員 | 千田 重賢 |
| 取締役副社長 | 井上 祐司 | 執行役員 | 岩倉 正人 |
| 常務取締役 | 越智 孝次 | 執行役員 | 池田 浩人 |
| 取締役 | 吉川 尚孝 | 執行役員 | 内山 卓爾 |
| 取締役 | 花澤 幹夫 | 執行役員 | 星野 義明 |
| 取締役 | 古瀬 健児 | 執行役員 | 織田 政和 |
| 取締役 | 岡田 洋 | 執行役員 | 中尾 成人 |
| 取締役(社外) | 酒井 基次 | 執行役員 | 根岸 尚登 |
| 取締役(社外) | 堀合 洋祐 | 執行役員 | 星 光孝 |
| 取締役(社外) | 本田 光宏 | 執行役員 | 小松 晃子 |
| 取締役(社外) | 坂本 順子 | 執行役員 | 伊豆 肇 |
| 常勤監査役(社外) | 井上 啓造 | 執行役員 | 関 晋也 |
| 常勤監査役(社外) | 林 修三 | 執行役員 | 吉田 郷 |
| 監査役(社外) | 棚橋 栄蔵 | | |

ネットワーク

冷蔵倉庫事業 49拠点

北海道ブロック
 十勝物流センター
 十勝第二物流センター
 十勝第三物流センター
 石狩物流センター
 石狩第二物流センター
 喜茂別物流センター

東北・圏央ブロック
 八戸物流センター
 気仙沼ソーティングスポットI
 気仙沼ソーティングスポットII
 仙台物流センター
 加須物流センター
 加須第二物流センター
 幸手物流センター
 鶴ヶ島物流センター
 伊勢原物流センター
 つくば物流センター

京浜ブロック
 東京羽田物流センター
 東京物流センター
 東京第二物流センター
 大黒物流センター
 横浜物流センター
 横浜みらいサテライト
 山内物流センター

中京・東海ブロック
 沼津物流センター
 大井川物流センター
 名港物流センター
 小牧物流センター
 名古屋物流センター
 中川物流センター

阪神ブロック
 夢洲物流センター
 北港物流センター
 舞洲物流センター
 西淀物流センター
 六甲物流センター

九州ブロック
 福岡ISLAND CITY物流センター
 福岡物流センター
 鳥栖物流センター
 鳥栖第二物流センター
 唐津ソーティングスポット
 長崎物流センター
 長崎ソーティングスポット
 佐世保ソーティングスポット
 都城物流センター
 都城第二物流センター
 志布志物流センター
 鹿児島物流センター

川辺物流センター
 枕崎ソーティングスポット
 山川物流センター

食品販売事業 27拠点

札幌営業所
 十勝営業所
 東日本畜産営業部
 名古屋出張所
 西日本畜産営業部
 福岡出張所
 海外営業1部
 海外営業2部
 海外営業3部
 海外営業4部
 東京営業所
 名古屋営業所
 沼津出張所
 大阪営業所
 福岡出張所
 気仙沼営業所
 仙台営業所
 八戸出張所
 銚子営業所
 茨城営業所
 唐津営業所
 佐世保営業所(平戸アイスファクトリー)
 長崎営業所
 枕崎営業所
 企画開発部
 EC推進室
 販売管理部

通関事業 5拠点

東京通関部
 横浜通関部
 大阪通関部
 神戸通関部
 九州通関部

連結子会社

THAI YOKOREI Co.,Ltd. (タイ)
 ワンノイ物流センター
 ワンノイ物流センター2号棟
 パンパコン物流センター
 パンパコン第2物流センター
 サムロン物流センター
 Best Cold Chain Co.,Ltd. (タイ)

株式の状況

発行可能株式総数 160,000,000株
 発行済株式の総数 59,266,684株
 株主数 15,682名

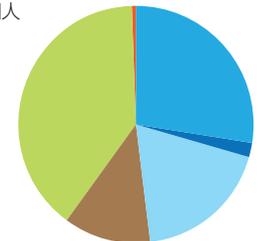
大株主(上位10名)

| 大株主名 | 当社への出資状況 | |
|------------------------------------|----------|---------|
| | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 6,092 | 10.30 |
| 株式会社松岡 | 2,569 | 4.34 |
| 第一生命保険株式会社 | 2,205 | 3.73 |
| 株式会社横浜銀行 | 2,176 | 3.68 |
| 農林中央金庫 | 1,473 | 2.49 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 1,468 | 2.48 |
| 株式会社八丁幸 | 1,411 | 2.38 |
| 横浜冷凍従業員持株会 | 1,249 | 2.11 |
| DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO | 1,194 | 2.01 |
| 株式会社サカタのタネ | 1,022 | 1.72 |

(注) 持株比率は自己株式(143,936株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

| | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| ■ 金融機関 16,493千株 27.8% | ■ 外国法人・外国人 7,020千株 11.9% |
| ■ 金融商品取引業者 1,187千株 2.0% | ■ 個人・その他 23,491千株 39.6% |
| ■ その他の国内法人 10,930千株 18.5% | ■ 自己名義 143千株 0.2% |



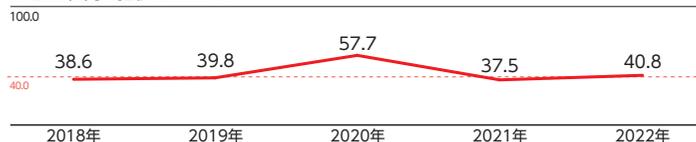
株主還元方針

■ 配当金・配当性向

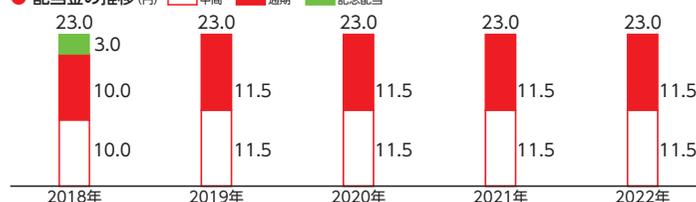
当社は、株主の皆様に対する利益還元の実施を重要な経営課題の一つとして認識し、企業価値向上に必要な設備・IT投資等を勘案しつつ、安定的な配当を継続して行くことを基本方針としています。

この方針に基づき、当期の期末配当金は1株当たり11.5円とし、年間配当金は23円とさせていただきます。

● 配当性向の推移 (連結 単位: %)



● 配当金の推移 (円) □ 中間 ● 通期 ▲ 記念配当



■ 株主優待

株主の皆様からの日頃のご支援に対する感謝と、ヨコレイグループの事業内容へのご理解をより一層深めていただきたいとの思いから、年1回、以下の基準にて、ヨコレイグループ取扱商品を使用した株主優待を実施しています。なお、今後も中長期的に当社の株式を保有していただくため、2022年度(基準日2022年9月30日)より、株主優待品の進呈条件を一部変更しております。

ご優待内容および対象となる株主様

① 3,000株以上かつ1年以上 保有の株主様*

「北海道産のホタテ・いくらセット」

② 1,000株以上～3,000株未満かつ1年以上 保有の株主様*

「ノルウェー産サーモントラウト製品詰合せ」

③ 100株以上 保有の株主様

株主様向けECサイトでの商品購入権 (上記優待品2種他)



● 実施時期

11月下旬頃～

* 9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された当該株数保有の株主様のうち、1年以上同じ株主番号で継続して当社株式を保有されている株主様が対象となります。

株主メモ

| | |
|-------------|---|
| 事業年度 | 10月1日より翌年9月30日まで |
| 定時株主総会 | 12月 定時株主総会の議決権 9月30日 |
| 基準日 | 剰余金の期末配当 9月30日 剰余金の中間配当 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告した日 |
| 公告の方法 | 電子公告 ※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 https://www.yokorei.co.jp/investors/publication/index.html |
| 単元株式数 | 100株 |
| 上場取引所 | 東京証券取引所(プライム) |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

▶ <https://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかる財務ハイライト等、個人投資家の皆様に当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツをご用意しております。

また、環境への取り組みや社会貢献活動、コーポレートガバナンス等、ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みに関する情報も掲載しております。

ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。

